

6 4 3 号 東部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県西部家畜保健衛生所 2022.12.12

県内すべての養鶏場で緊急消毒を実施 ... 1

県内の野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスを検出 2

家さんにおける HPAI の発生状況および防疫対策強化について 3

☆「食品安全フォーラム in とやま～食品の安全性について考えよう！食の安全を守る取組みと基礎知識～」開催される ... 4

☆畜産環境保全強化巡回催が終わりました ... 4

肺炎に負けない子牛を育てよう！ 5

防疫情報 6

お知らせ 6

県内すべての養鶏場で緊急消毒を実施



消石灰散布による緊急消毒（県内養鶏場）

高病原性鳥インフルエンザについては、10月28日、岡山県と北海道の養鶏農場で、国内ではこれまでで最も早い時期に確認されており、現在まで（12月6日時点）1道15県26事例の発生があり、すでに昨シーズン（約190万羽）を上回る約400万羽の家さんが殺処分されることとなっています。（関連記事3、5、6ページ）。

こうした、全国における異例のペースでの感染状況や県内の野鳥から鳥インフルエンザウイルスが検出されたこと（2ページ）などを踏まえると、県内でも高病原性鳥インフルエンザの発生リスクが非常に高まっていると考えられることから、県は25の養鶏場を対象に消石灰を配布し、11月30日までにすべての養鶏場で緊急消毒が実施されました。

（西部家保防疫課 蓮沼課長）

県内の野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスを検出

今年度、国内の野鳥における高病原性鳥インフルエンザウイルスの検出は、昨シーズンに比べ2カ月以上も早い9月29日の神奈川県伊勢原市で発見された死亡野鳥(ハヤブサ)に始まって以降、12月2日時点までに75事例と例年にないハイペースでの検出が続いています(図1)。

10月には、近隣の福井県や新潟県で発見された死亡野鳥からもウイルスの検出が確認され、県内でも警戒が続いていたところ、11月26日、射水市の水田で見つかったコハクチョウ1羽の死体から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されました。さらに11月30日には、富山市内で発見されたノスリの死体からも、簡易検査でA型インフルエンザの陽性反応が確認され、12月6日現在、国立環境研究所で遺伝子検査を実施し、詳細の確認を行っているところです。

感染確認を受けて、環境省が発見地点から半径10km圏内を野鳥監視重点区域に指定し(図2)、重点区域内の渡り鳥飛来地において野鳥監視を強化しています。

今シーズンは家きん農場へのウイルスの侵入リスクが特に高い状態にあります。このため関係者の皆様においては、今一度、以下のウイルス侵入防止対策に万全を期すようお願いいたします。

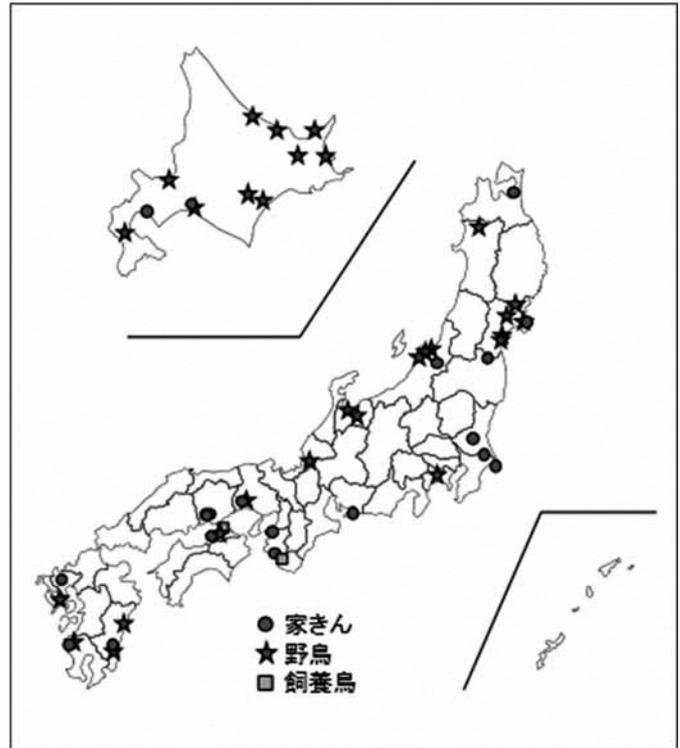


図1 国内における高病原性および低病原性鳥インフルエンザ発生状況

(出典：農林水産省ホームページ)

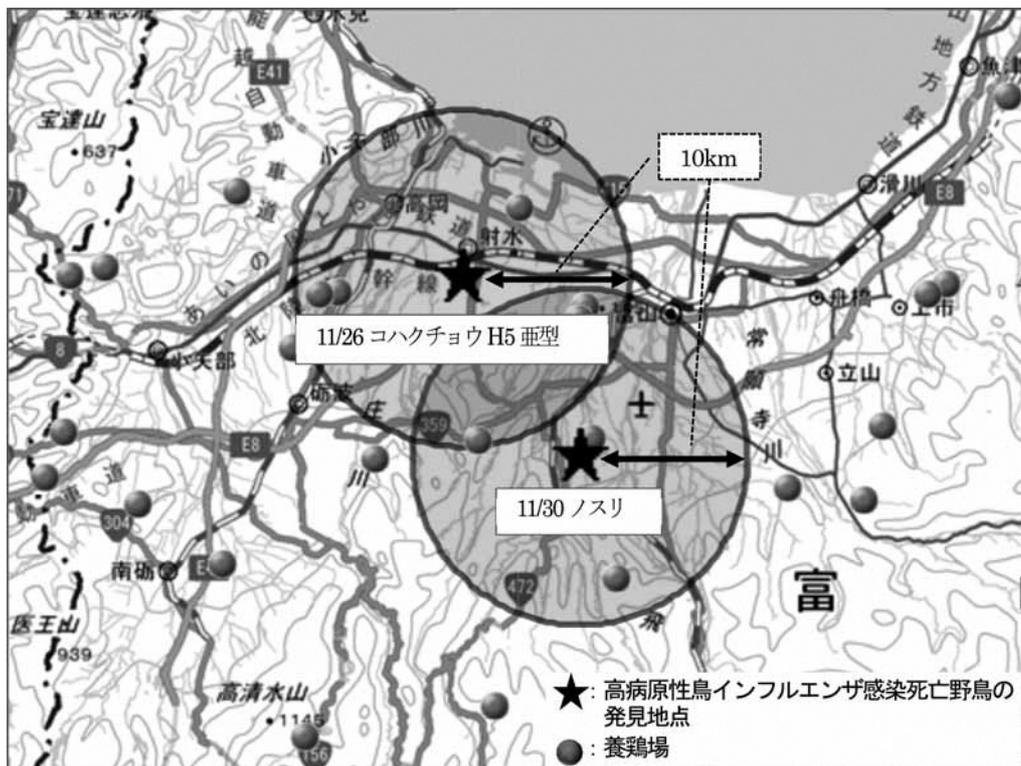


図2 県内の野鳥監視重点区域(11/30時点)

(西部家保検査課 西村主任)

家きんにおける HPAI の発生状況および防疫対策強化について

令和4年10月28日に岡山県倉敷市の採卵養鶏場で今シーズン初めて高病原性鳥インフルエンザ(以下、HPAI)の発生が確認されて以降、12月6日までに1道15県26事例の発生が確認されており、約400万羽の家きんが殺処分の対象となっています(関連記事1、5、6ページ)。また、野鳥からのHPAIウイルス検出数も増加しており、野鳥だけでなく環境の水から検出された例もあります(関連記事2ページ)。

これらのことより、今シーズンは渡り鳥の集団が持ち込んだHPAIウイルスの量が環境中で非常に高まっている状況にあると考えられることから、特に最大限の警戒感を持って対応してください。

更なる防疫対策の強化を！

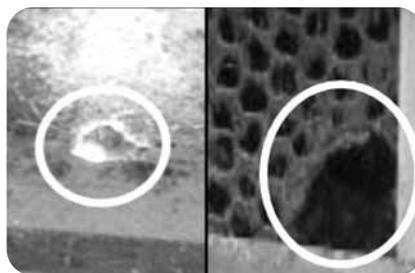
全国各地で野鳥でのHPAI感染例が数多く確認されており、全国的に環境中のウイルス濃度が非常に高まっていることから、特に農場敷地内や鶏舎周囲も、野鳥の糞等に含まれるHPAIウイルスにより汚染されている可能性が高いことを認識した上で、以下に挙げる対策を徹底してください。

1. 鶏舎に出入りする従業員等に、消毒、長靴交換等の重要性を説明し、適切に消毒や長靴の交換ができていないか再度確認してください。
2. 農場敷地内や鶏舎周囲の消毒を毎日行ってください。また、消毒はため池等の水場を意識し、その近くはリスクが高いことから、徹底して消毒を行ってください。
3. 猫やイタチ等の小動物や野鳥等が農場内に近づかないような対策を講じてください。
4. 開放鶏舎のみならずウインドウレス鶏舎のように一見隙間がないように思われる鶏舎であっても、飼養衛生管理者と鶏舎構造を熟知している者等が連携してねずみや猫をはじめとした野生動物等が侵入しそうなルートを探し侵入防止対策を講じてください。
5. 鶏舎の出入りの際に本病ウイルスを鶏舎内に持ち込むことのないよう衛生管理区域に入る際の適切なタイミングでの専用衣服の着用、鶏舎ごとの専用長靴の設置、手指消毒及び長靴の消毒・交換等の適正な衛生管理が日常的になされているか再度確認してください。
6. 消毒を行う際は、長靴等の汚れを落としてから行うとともに、消毒薬は汚れた都度、最低でも1日1回以上交換し、消毒薬が有効な状態での使用を徹底してください。
7. 長靴の交換の際は、交差汚染を防ぐため鶏舎外と鶏舎内で使用する長靴の動線が交わらないように注意してください。

令和4年11月28日 家きん疾病小委員会「高病原性鳥インフルエンザの続発を踏まえた緊急提言」より抜粋



野鳥飛来防止対策(忌避テープ等)



壁や金網の破損修繕



専用の服や靴の使用

(写真出典：農林水産省ホームページ)

今シーズンは、野鳥でのウイルス検出および家きん農場での発生ともに例年より早く、国内のどの地域で発生してもおかしくない状況にあります。発生を予防するには農場における更なる衛生管理の徹底が重要となります。改めて日々の衛生管理を見直していただき、発生予防に努めていただきますようお願いいたします。また、死亡羽数が通常の2倍に増加した場合や産卵率の低下、元気消失などの通常と異なる症状が見られた場合は、直ちに管轄の家畜保健衛生所まで通報をお願いします。

(西部家保防疫課 蓮沼課長)

「食品安全フォーラム in とやま～食品の安全性について考えよう！食の安全を守る取組みと基礎知識～」開催される

富山県では、食の安全に関するリスクコミュニケーションの一環として、毎年、食品安全フォーラムを開催しています。

令和4年度は、11月2日(水)、パレブラン高志会館カルチャーホールで、「食品小売業における食の安全を守る取組み」、「安全な食品を選ぶための基礎知識と最新情報」をテーマに講演を行いましたので、ご紹介します。

なお、詳細につきましては、とやま食の安全・安心情報ホームページに掲載しております。また、各地域のケーブルテレビで講演の様子を視聴できますので、ぜひご覧ください。

(番組名「令和新時代 県政クローズアップ (第3回)」、放送終了している地域もございます。)



詳しくはこちら



会場の様子

講演1 「食品小売業における食の安全を守る取組み」

講師 池田和男 氏 (アルビス株式会社 代表取締役社長)

- ・プロセスセンターでは、惣菜、精肉、豆腐工場のすべてで食品安全マネジメントシステムに関する国際規格 ISO22000 を取得し、安全安心な商品管理を進めている。ISO22000 の認証取得は、ゴールではなく、安全安心のレベルを高めるスタートラインである。
- ・本部では衛生管理の方針、実施方法、運用体制、教育体制を策定し、店舗では本部が定めたルールを適切に運用する。本部では、実施結果の検証等も実施しており、PDCA サイクルにより衛生管理を行っている。

講演2 「安全な食品を選ぶための基礎知識と最新情報」

講師 竹内弘幸 氏 (富山短期大学食物栄養学科 教授)

- ・安全とは科学的根拠に基づいた保証であり、安心とは安全に信頼が加わった心理的判断をいう。
- ・完全に安全な食べ物は存在しない。摂取する量が非常に重要である。
- ・マイクロプラスチック (5mm以下の小さなプラスチック片のこと) による、海洋・土壌の汚染が進んでおり、大気中にも浮遊している。食品 (野菜・果物・ボトル飲料水等) も汚染され、健康への影響が懸念されているが、十分な研究はされておらず、よくわかっていない。健康的な生活習慣・食生活で抵抗力をアップしておくことが重要である。
- ・量的なものの考えもとりにいれつつ、正しい知識に基づき、理性的な対応をして、健康的な食生活を送っていくことが重要である。

(農産食品課食品安全係 早苗主任)

畜産環境保全強化巡回が終わりました

畜産農家における家畜排せつ物の処理や保管が適正に行われているか、その状況の確認を行うため、東部管内では6月～12月に、また、西部管内では10月～11月に畜産環境強化月間として巡回を行いました。県内の巡回対象戸数は、それぞれ乳用牛31戸、肉用牛21戸、養豚12戸、養鶏14戸でした。

また、河川や沿岸海域等へ畜産由来の排水を放流する場合、水質汚濁防止法による硝酸態窒素の排水基準値をクリアする必要があるため、汚水の浄化処理を行っている養豚農場の水質簡易検査(硝酸態窒素)を県内9戸の農場で実施し問題ないことを確認しています。家畜排せつ物法では、一定規模以上の家畜飼養農場を対象に、管理施設の構造設備に関する基準や管理の方法に関する基準を遵守しなければならないとされています。今後も管理基準に従って適切な管理をしてください。



発酵が進んでいる堆肥

(西部家保環境課 加納上席専門員)

肺炎に負けない子牛を育てよう！

日照時間がだんだんと短くなり、寒い季節となりました。冬は子牛の肺炎が増える時期です。ストレスから子牛を守ることで、免疫力を高め、肺炎から守ることができます。

＜牛の呼吸器病症候群 Bovine Respiratory Disease Complex (BRDC) とは＞

ウイルスおよび細菌などの病原微生物とストレス等による免疫状態の変調が関連しあって発生する経済的損失の大きな疾病です。輸送、群編成、環境要因などのストレス感作で免疫が低下することで、ウイルス感染から始まり、マンヘミアの肺における増殖と菌体外毒素の産出、そしてパストレラなどの二次的細菌感染を起こし、複雑な混合感染による呼吸器病に発展します。また、マイコプラズマも肺炎の進行過程に関与すると考えられており、家畜保健衛生所の病性鑑定においても、パストレラやマンヘミア、マイコプラズマなどの細菌が呼吸器から分離されています。

＜肺炎対策＞

○乾燥したきれいな敷料で暖かく清潔に

汚れた敷料は不衛生なうえに湿っており、子牛の体温を下げるるとともに病原菌の感染源となります。一方、乾燥した敷料は衛生的でふかふかの布団のように子牛の体を温めます。体温を維持することで免疫も高まり、快適に過ごすことができます。

○十分な栄養で免疫をつけ、丈夫な体に

十分な栄養で育った子牛は体格も良好で、高い免疫能を持っています。授乳する母牛に十分な栄養を与えることで栄養たっぷりの母乳を子牛に飲ませることができます。代用乳も子牛がしっかり飲んでいいるか確認しましょう。

○適切なワクチン接種

ワクチン接種により症状を軽減する効果があります。ワクチンプログラムは獣医師にご相談ください。

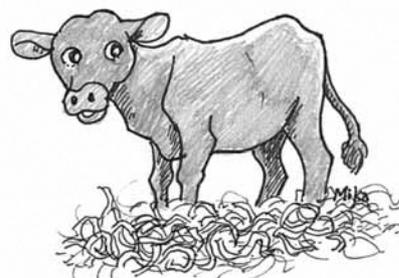
○早期発見、早期治療

病気を早く発見することで、軽微な治療で軽快させることができます。反対にこじらせてしまうと、その後の発育に悪影響を及ぼし、牛の経済的価値を落としてしまいます。観察をこまめに行い、異常に気付いたら獣医師に相談してください。



(敷料が湿っている場合)

体が冷えるうえに病原菌の感染源にもなります。



(乾燥した敷料の場合)

衛生的で布団のように子牛の体を暖かく包みます。

(西部家保検査課 穴田獣医師)

防疫情報

全国の主な家畜伝染病の発生

高病原性鳥インフルエンザ (法定伝染病)

(12月6日現在)

事例	発生月日	発生場所	経営形態	飼養頭数	備考
6	11月7日	北海道伊達市	肉用鶏	約15万羽	H5N1
7	11月11日	岡山県倉敷市	採卵鶏	約3万羽	H5N1
8	11月11日	和歌山県白浜町	あひる等	約60羽	H5N1
9	11月13日	兵庫県たつの市	採卵鶏	約4.4万羽	H5N1
10	11月18日	鹿児島県出水市	採卵鶏	約12万羽	H5N1
11	11月18日	新潟県阿賀町	肉用鶏	約15万羽	H5N1
	関連施設	新潟県阿賀町	食鳥処理場	約0.6万羽	H5N1
12	11月20日	宮崎県新富町	採卵鶏	約16万羽	H5N1

事例	発生日	発生場所	経営形態	飼養頭数	備考
13	11月20日	青森県横浜町	肉用鶏	約12.2万羽	H5N1
	関連施設	青森県横浜町	食鳥処理場	約0.8万羽	H5N1
14	11月22日	香川県観音寺市	肉用鶏	約2.4万羽	H5N1
	関連農場	香川県観音寺市	肉用鶏	約0.9万羽	H5N1
15	11月23日	香川県観音寺市	採卵鶏	約1.4万羽	H5N1
	関連農場	香川県観音寺市	採卵鶏	約0.8万羽	H5N1
	関連農場	香川県観音寺市	採卵鶏	約1.2万羽	H5N1
16	11月23日	宮城県気仙沼市	肉用鶏	約2.1万羽	H5N1
17	11月24日	鹿児島県出水市	採卵鶏	約7万羽	H5N1
	関連農場	鹿児島県出水市	採卵鶏	約0.8万羽	H5N1
18	11月26日	千葉県香取市	あひる(あいがも)	約20羽	H5N1
19	11月27日	鹿児島県出水市	採卵鶏	約47万羽	H5N1
20	11月29日	福島県伊達市	肉用鶏	約1.7万羽	H5
21	11月30日	和歌山県和歌山市	採卵鶏	約4.6万羽	H5
22	12月1日	鳥取県鳥取市	採卵鶏	約11万羽	H5
23	12月2日	鹿児島県出水市	採卵鶏	約12万羽	H5
24	12月4日	鹿児島県出水市	採卵鶏	約3.4万羽	H5
25	12月5日	愛知県豊橋市	採卵鶏	約31万羽	検索中
26	12月6日	佐賀県武雄市	採卵鶏	約3万羽	検索中

県内の主な家畜伝染性疾患の発生

病名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
豚丹毒	豚	10月13日	1	1	と畜場発見
		10月14日	1	1	
		10月18日	1	1	
		10月25日	1	1	
		11月2日	1	5	
		11月4日	1	1	
		11月10日	1	1	
		11月18日	1	2	
11月21日	2	2			
牛コクシジウム症	牛	10月25日	1	1	
牛トロウイルス病	牛	10月26日	1	2	
		11月7日	1	2	
山羊の捻転胃虫症	山羊	11月4日	1	1	
山羊の消化管内線虫症	山羊	11月10日	1	1	
牛トロウイルス病	山羊	11月25日	1	2	

☆お知らせ☆

催事等	期日	場所
畜産共進会表彰式(豚の部)および養豚研修会	12月16日	第2富山電気ビルディング(富山市)
北陸三県和牛子牛市場	12月22日	北陸三県家畜市場(金沢市)

県畜産関係職員人事異動

氏名	新所属	旧所属
米澤 史浩	西部家畜保健衛生所主任	東部家畜保健衛生所主任

発行所 富山県東部家畜保健衛生所 http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/index.html
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話 (076) 479-1106 FAX (076) 479-1140
編集者 稲畑 裕子(富山県西部家畜保健衛生所)